

教職員自己評価結果

1. 教育内容

1. 幼稚園の教育理念について

- ・教育理念について、今年度は、理解している人がほとんどになっています。一人一人の方が、自分の内面に向かって、しっかり問いただしている結果なのかもしれないと思っています。
- ・自分に確信を持つには、子どもの姿を記録することが不可欠、教育理念を具体的に保育と突き合わせて、実践しているかを点検していくことが望ましい。

① 調和のとれた人格とは

毎年、人格とは何か言語化するには難解のようです。難解なことをそのままにしないで、少しでも前進できるようにしていきましょう。人格とは何かということ言語化できるようにしましょう。そのために役立つ学習会を取り組んでいきたいと考えています。

② 人格の発達とは

人格の発達とは、様々な能力を発達させること。

- ・能力の分類
・認識能力(感覚、知覚、注意力、記憶、思考、言語)
 - ・言葉とコミュニケーションの能力
 - ・行為する能力(行為しなくては認識しない、自分で決定しなくては行為できない)

具体的保育の中で、何を通して発達させるのかを実践の中で明らかにする。豊かな遊びが保育の中にあること、又、集団生活、課業の中でも実現できることだが、それぞれの行為の中での発達を個々の子どもの中に見られる努力が大切である。

① 幼稚園の環境とは

・人的環境、物的環境についての理解は、ほとんどの教師が理解している。それを保護者に具体的に言語化して理解してもらうようにしましょう。人的環境については、私達教師間でそれぞれが影響し合って高め合えるように学ぶことが重要、父母との関係作りも創意工夫していこう。子ども集団はクラス集団作りも重要、より温かな雰囲気になり、一人一人の自立度が高くなくてはならない。

・ひとりひとりの子どもにどんな体験があるか、を知ることが必要、家庭的雰囲気、ゆったりした時間を保障するとともに、豊かな体験をどうさせるかを、教師が、想像力駆使して作っていきましょう。

2. 保育形態

- ・混合保育は当園の保育の根幹をなすもの、昨年より学習して、混合保育について理解し、その利点を言語化できる教師が増えた事は喜ばしい。混合保育をする上で最も大切にしている事を言語化できるように教師同士が学習していきましょう。
- ・混合保育が、子どもにとってどんな利点があるのかを子どもの実態を通して把握していきましょう。

2. 保育の構造

- ・日課

日課については、子どもは日課によって生活している。子どもの実態から日課を捉えたい。

① 遊びについて

遊びが子どもを発達させる手段であることは、理解をしている人が多い、遊びを通して発達する能力について具体的に言語化できるようにしたい。昨年と違って特記すべき事は遊びを豊かにする条件が言語化できることは、豊かな体験、経験が出来る生活を保障しようとしている事、遊びこそ、保育の根幹をなすものなので、教師の遊びについての知識を多く持ち、教師自身も遊びの喜びを知ってほしい。想像力が豊かになるようにしていこう。

② 課業について

課業を自由参加にしている意味を理解している、又、ほとんどの教師が昨年よりも努力していることがうかがえる、ただ、課業計画を事前に立てシュミレーションしている人が多くなっているのが、嬉しいです。課業を成功させるには、子どもの実態をしっかり把握しなくてはなりません。子どもにどんな体験があるのか、子どもがどんな経験をしているかをしなくてはなりません。子どもは五感を通さなくては何も理解しないし、喜びもないことをしっかり理解し、計画を工夫して立て、子どもが喜びを持って主体的に取り組める課業にしましょう。

③ 集団教育

昨年よりも、Aと答えている教師が多い、努力していることがわかる。昨年同様に子どもが、自分から、自分の生活環境に関心を示し、快適に暮らすためにする仕事に関心を示すようにする所が弱い(年長児、自分のクラスという自覚)、ひとりひとりが、心身の発達が見えてきたところにあつてこそ、集団が発達する。集団が高まってこそ、個々の子どもが発達する。

3. 子ども像について

子ども像については今年は、ほとんどの人が持っているようです。ただ、子ども像を具体的な子どもの姿としてイメージ出来ないのは何故か、考えてみよう。

5. 教育環境の構成

安全に心地よく過ごすことが出来るように環境を整えている人が多いことに喜びを感じる。園庭の環境を有効利用、四季の変化に関心を持てるようにするためには、教師が四季の移り変わりに敏感でありたい。遊び、及び発達を個々の子どもの保育計画を立てる努力をしていこう。多様な遊びを想像できるような環境にするには、大人が想像力磨く必要がある。

6. 幼稚園教育要領について

自分たちの教育と、文科省の教育要領、厚生省の保育指針との違い、同じ所を突き合わせて学びたい。

2017年度重点目標

就学前までにつけたい力

1. 集中して遊ぶ事、想像してあそぶことが出来る

子どもは豊かな体験がないと遊べない、子どもの遊びを予想して、道具を用意したり、落ち着いた雰囲気や、友達との関わり、ひとりひとりの情緒の安定を。遊びについて、皆でしっかり学んでいきたい。

2. さまざまな単純な遊びを知っている

子どもは今、何に興味があるか、どんな体験をしているか、子どもを理解することが大切、子どもを知れば、おのずとわかってくるものです。ルールのある遊びは何回も体験しなくてはわからない。又、遊びは子どものもので、遊びを作り出す力がどの子にもなくてはならない、そのためには、子どもに様々な体験をさせよう。

2. ボールを上手に使えるか

体育の課業の中で取り入れたい、庭で個別にする必要がないか、又、ボールを使った遊びの考えてみよう。

3. おはなしを聞くことが出来る

昨年より努力している教師が多いが、今一步努力されたい。また、お話を覚えて素話のレパートリーを増やす努力をしたい。とにかく課業を定期的にするようにしていけば、おのずと、材料が増える。

4. たくさんの詩をしっているか

努力がみえるが、文学の課業をおろそかにしないように、又、教師がたくさんの詩を好きになって欲しい、課業をすることで増えていくでしょう。そして、日常の保育の中で口づさんで欲しい、具体的に一日2.3ヶ、週に幾つかと、必ず決めてやらなくては、と思います。

5. 描画の道具の使用方法を身につけているか

就学後に必要不可欠なこと、どの子にも身につけさせたい。

7.10 まで1対1対応で数えられるか

卒園時にはすべての子ができるようにしたい。

8. 空間感覚(上下、左右、配置がわかる)

あらゆる生活の場で学習させる、獲得しているか、個人をしっかり見ることが、必要。

9.さまざまな視点でグループわけができる

数学、日常の生活の中で、分類を多く体験させたい

10.衛生的な習慣を身につけている

保護者に大切さを理解してもらい、子どものものになるように、保護者が努力してもらえるように協力してもらおう。そして、子どもが自ら自立して自分の身を守れるように習慣化させたい。

11.紐が結べる

個別にみていかななくてはならないことと、保護者の協力がひつようなので、具体的に手立てをしらせたい。

12.着替えをスムーズに、ボタンの留めはずしが出来る

卒園時はどの子どもできなくてはならない。保護者に徹底して、わが子をみてもらえるようにしよう。

13.利き手(左利き、右利き)がはっきりしている

一人一人を見ていて、保護者の協力もしてもらっている

14.微細運動ができ、安定している

微細運動の発達の為に努力していることがわかる、このことが脳の発達にも影響することを保護者に理解してもらおう。

15.体全体が自分の思うように動く

体の発達の為に昨年より努力している人が多い
微細運動、粗大運動とも日常の遊びの中で見ていき、弱い所を助けていきたい。

16.相手にわかるように、自分の思いが言える

昨年より多くの教師が努力している点が見える。自分の思い表現することは、大切、いろいろな機械に体験させたい。

17.自分の心を少しコントロールできる

遊び、生活の場でひとりひとりに対応していくこと。

18.行為する能力、コミュニケーションの能力

昨年より努力していることがわかる

19.美的な事、美的なものに関心を持つ

環境の整理整頓、より美しいものに大人が関心を持ち、それが、心地よいことと感じられるようにしたい

20.基本的な生活習慣の確立

子どもをよく知る事、ひとりひとりが身につけているか、しっかり見る、全体で見えてはいけない